資料２

日本博について

令和３年１月

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

独立行政法人
日本芸術文化振興会

「日本博」について

1. 経緯

○ 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」（主催：安倍総理〔～2020年9月〕、座長：津川雅彦氏〔～2018年8月〕・小林忠氏〔2019年月4月～〕）において、日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施策の検討等を実施。

○ 「日本博」は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として日本の全国各地で実施することとされ、第6回の同懇談会（2018年6月22日開催）において、総理から文部科学省・文化庁に対して準備を進めるよう指示。第1回「日本博総合推進会議」を2018年12月26日に開催。また、第1回「日本博の開催等準備に関する関係府省連絡会議」を2019年2月26日に、第2回を同年10月17日を開催。

○ 2020年3月12日に開催された第2回「日本博総合推進会議」において、総理からは、「新型コロナウイルス感染症の収束が視野に入った段階では、日本の素晴らしさを国際社会に向けアピールするため、日本博を一層強力に推進していく」とのご発言。

2. 関連スケジュール

2015年：「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」発足
2016年：「日本仏像展」（於：イタリア）を開催
2018年：「ジャポニスム2018」（於：フランス）を開催
2019年：3月「日本博」旗揚げ式
：「日本博」（於：日本）を試行的な事業も含め段階的に実施
：「Japan 2019」（於：米国）、「響きあうアジア2019」（於：東南アジア）を開催
2020年：国内観光需要の一層の喚起、インバウンド需要回復に資するコンテンツを発信
（※ 2021年東京2020オリンピック・パラリンピック前、期間中及び東京2020オリンピック・パラリンピック後に開催）

「日本博」の総合テーマ等

1　総合テーマ：「日本人と自然」

2　基本コンセプト

「日本の美」は、縄文時代から現代まで１万年以上もの間、大自然の多様性を尊重し、生きとし生けるもの全てに命が宿ると考え、それらを畏敬する「心」を表現してきた。

日本は、景観や風土を大切にし、縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、現代の漫画・アニメなど様々な分野、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式等において、人間が自然にたいして共鳴、共感する「心」を具現化し、その「美意識」を大切にしている。

「日本博」では、総合テーマ「日本人と自然」の下に、「美術・文化財」「舞台芸術」「メディア芸術」「生活文化・文芸・音楽」「食文化・自然」「デザイン・ファッション」「共生社会・多文化共生」「被災地復興」などの各分野にわたり、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで更なる未来を創生する。

この文化芸術の祭典が、人々の交流を促して感動を呼び起こし、世界の多様性の尊重、普遍性の共有、平和の祈りへとつながることを希求する。

３　開催時期等

２０２１年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開

４　実施にあたってのポイント

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、「日本の美」を体現する美術展・舞台芸術公演・文化芸術祭等を全国で展開。

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、四季折々・年間を通じて体系的に展開。

新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、魅力あるコンテンツの発信などを通じて、２０２０年は実施主体において新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底、新しい生活様式を踏まえながら国内観光需要の一層の喚起や日本文化に関心がある海外層の訪日意欲を喚起しつつ、プロモーションを実施。

文化庁を中心に、関係府省庁や文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者の総力を結集した大型国家プロジェクト

- ○　２０２１年東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会前、期間中、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後のインバウンド需要回復・拡充
- ○　国内観光需要拡充・「地方への誘客」の促進
- ○　国家ブランディングの確立
- ○　文化芸術立国としての基盤強化

「日本博」における横断的取組と期待される効果

現状・課題
◎個々の分野、施設ごとに、インバウンド、情報発信などを対応しており、一元的・継続的な情報発信が十分ではない。
◎好事例として蓄積されたノウハウが全国に展開されていない。

方針
◦戦略的プロモーション、一元的・継続的な情報発信、訪日外国人向けコンテンツの開発、文化体験ツアー造成など
◦新しい手法・演出・技術を積極的に導入した取組を推進し、蓄積されたノウハウを全国に横展開

国民自身が、自国文化の魅力や素晴らしさを発見・再認識する機会の拡充

◎**日本博の具体的な企画・実施を通じた魅力の再発見・人材育成へ**
・日本の歴史、芸術、食、自然環境等の魅力の再発見、価値づけを行い国内外へ発信
◎**子供・若者・障がい者・高齢者が参加できる文化プログラム・体験機会の拡充**
・新たな技術・演出・手法も活用した伝統文化から現代芸術までの体験機会の拡充
・国民参加型のプロジェクト実施　等

官民連携の下、オールジャパンで国内外への戦略的プロモーションを推進

◎**質の高い文化資源による戦略的プロモーションのための仕組みの構築**
・全ての分野を一元的に扱った情報、VR・AR、高精細画像・映像の先端技術を活用したコンテンツ制作・多言語化等による海外プロモーション・パッケージを提供
・観光庁、JNTO等との連携
◎**官民連携による異業種連携プロモーション促進**
・文化との連携による商品開発や、企業の先端技術開発・アピール　等

文化による「国家ブランディング」を強化

戦略的取組による好循環を形成

「文化芸術立国」としての基盤を強化

文化による観光需要回復・拡充に向けた取組、「地方への誘客」の促進

文化による「国内観光需要の一層の喚起」「観光インバウンド需要回復」に向けた訪日意欲の喚起、「地方への誘客」の促進

◎ **多様な広報媒体による「旅前・旅中・旅後」情報発信等によるインバウンド促進**
・官民連携(自治体、旅行・ホテル・飲食等関係団体、交通関係団体との官民連携体制による来訪者ニーズ把握，誘客のための多言語による情報発信やニーズに応じた相談・案内等の取組促進
・実施期間中の社会的・経済的効果を個別に測定・分析・マーケティング等で活用　等
◎ **複数の文化拠点・事業による企画連携を取り込んだ周遊ルートモデルの開発**
◎ **国内外の観光需要を喚起する映像コンテンツ制作・発信、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策などの情報発信**

「日本博」の検討・実施体制について

日本博総合推進会議

議長：内閣総理大臣　議長代理：内閣官房長官
議長補佐：内閣官房副長官（参）
構成員：オリ・パラ大臣、クールジャパン担当大臣、外務大臣、文科大臣、国交大臣、
小林達雄氏、小松大秀氏、島谷弘幸氏、高階秀爾氏

日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議

各省庁間の連携・調整

議長：内閣官房副長官（参）、議長代理：内閣官房副長官補（内政）
議長補佐（全体総括担当）：文化庁長官、議長補佐（オリ・パラとの連携担当）：オリ・パラ事務局長

文化庁
全体統括

オリ・パラ事務局 | 知財事務局 | まちひとしごと事務局 | アイヌ政策室 | 宮内庁 | 警察庁 | 総務省 | 外務省 | 国税庁 | 文科省 | 厚労省 | 農水省 | 経産省 | 観光庁 | 環境省

文化庁「日本博」企画委員会

有識者、地方自治体代表、産業界代表、日本博事務局事務総長

適宜助言等
企画の立案・実施への助言

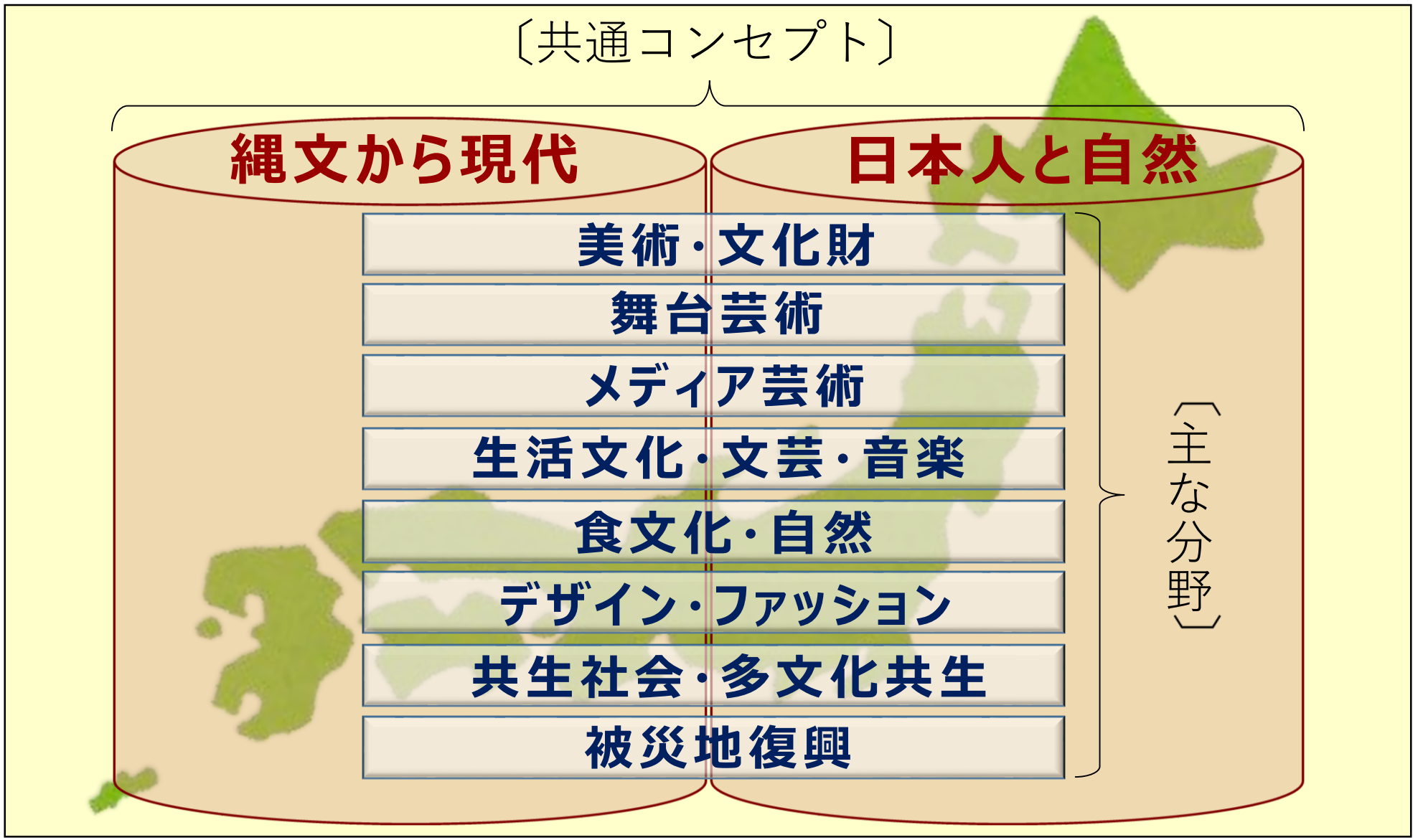
国立文化施設

（独）日本芸術文化振興会
日本博事務局
企画の立案・実施
事務総長：理事長

- （独）国立文化財機構
- （独）国立美術館
- （独）国立科学博物館
- 国立アイヌ民族博物館
- 国立近現代建築資料館

「日本博」の枠組み・イメージ①

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、2021年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開する。



「日本博」の枠組み・イメージ②

主催・共催型

「総合大型プロジェクト」

「日本博」の中核となる総合大型プロジェクト（国、文化施設、民間団体、事務局等が共同で企画・実施）

（イメージ）
- 縄文から近現代の美術
- 伝統芸能・現代舞台芸術
- メディア芸術
- 生活文化・文芸・音楽

等の複合領域を一つの空間で演出するプロジェクト

「分野別大規模プロジェクト」

「日本博」のテーマ及びコンセプトを加味した大規模な展示・公演等のプロジェクト（全国的な活動を行う団体等が主催）

（イメージ）
- 地方自治体や文化関係団体等で一定期間実施するプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、被災地との共催、共生社会・多文化共生、最先端技術の導入等に係るものは例外とすることを想定。

公募助成型

「ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ型ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」
「文化資源活用推進事業」
「国際的文化ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ展開推進事業（長期開催型）」
「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」

各地域や団体の特色ある企画を公募し事業費を一部助成

（イメージ）
①地域の特色を生かして新たに企画・実施するプロジェクト
②文化関係団体が実施する新規性・創造性が高いプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、被災地との共催、共生社会・多文化共生、最先端技術の導入等に係るものは例外とすることを想定。

参画型

各地域や団体の特色ある企画を公募し企画内容を認定

（イメージ）
①テーマ、コンセプトに沿う日本を代表するプロジェクト
②「日本博」として国内外に発信するものとして相応しいプロジェクト

等

２０１９年度の採択状況

・2019年4月から公募等を行い、主催・共催型69件、公募助成型69件　**計138件を採択**
・参画プロジェクト　**計288件を認証**

◆主催・共催型　:69件（118件提案）

※一次受付：19件採択（23件提案）、二次受付：31件採択（46件提案）、三次受付：19件採択（49件提案）

◆公募助成型 :69件（177件申請）

※一次募集：38件採択（113件申請）、二次募集：27件採択（48件申請）、三次募集：4件採択（16件申請）

◆参画プロジェクト　:288件

◆プロモーション

- 黒柳徹子氏を広報大使として任命
- 観光庁、ＪＮＴＯとの連携による海外発信
- ラインナップリーフレットの作成・配布、ＨＰ（英語発信）等を実施
- 今後、本格的なＨＰ等の運用開始、国内外メディア・在京大使館の招へいなど本格的なプロモーションを開始
- 関係府省との連携を具体的に企画・実施
  （国立公園、日本酒、ファッション、共生社会、外交団招へい等）

黒柳徹子（撮影下村一喜）

２０２０年度の採択状況

・1次（1月から公募等開始）：主催・共催型61件、公募助成型88件　**計149件を採択**
　2次（5月から公募等開始）：公募助成型　**13件を採択**
・参画プロジェクト　**99件を認証（12月末現在）**

特に、1月に公募等を行った1次採択分149件について、新型コロナウイルスの影響等により事業計画の大幅な変更等が生じている。

◆主催・共催型：61件（1次採択分）

	予定通り実施	変更して実施 （今年度中）	辞退 （来年度実施を含む）
実施済み （開催中を含む）	2	４３	―
今後実施	0	１３	―
計	2	５６	3

◆公募助成型：88件（1次採択分）

	予定通り実施	変更して実施 （今年度中）	辞退 （来年度実施を含む）
実施済み （開催中を含む）	１２	４２	―
今後実施	4	8	―
計	１６	５０	２２

２０２０年度の採択状況

◆公募助成型：１３件（2次採択分）

	予定通り実施	変更して実施 （今年度中）	辞退 （来年度実施を含む）
実施済み （開催中を含む）	５件	４件	－
今後実施	２件	２件	－
計	７件	６件	－

◆プロモーション

- 観光庁、ＪＮＴＯとの連携による国内外の発信
- ラインナップリーフレットの作成・配布、日・英・仏・韓・中（簡・繁）によるHPの多言語発信、在京海外メディア・大使館への発信等を実施
- 映像コンテンツ発信により、国内観光需要及び訪日意欲を喚起するプロモーションを実施
- 関係府省との連携を具体的に企画・実施
  (国立公園、ファッション、共生社会・多文化共生 等)

２０２０年度プロジェクトの概要

◆ 縄文から現代までの代表

国内各地の縄文文化から国宝、浮世絵（北斎など）、日本の衣食住、ユネスコ無形文化遺産、国立公園、マンガ・アニメ、ファッションなどにおいて、日本人が自然とどのように向き合い、文化芸術活動を通じて表現し、守り伝えようとしているか等をテーマに、海外の方々をはじめ日本の多くの方々に楽しんで頂くことを意識したプログラムです。

◆ 国内観光需要や訪日意欲を喚起するためのコンテンツ発信

能狂言、文楽、歌舞伎、組踊での舞台や、美術品・文化財の映像・解説、芸術祭などを、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたコンテンツとして制作し、国内外に向けて発信し、国内の観光・インバウンド需要回復を喚起します。

◆ 全国展開

日本遺産や近代化遺産などの地で伝統芸能、伝統工芸、食文化などの日本博関連プログラムが企画され、地方誘客を目指しています。

- **アイヌ（民族共生象徴空間：ウポポイ：2020年7月開始）、沖縄の伝統芸能である組踊など国内各地で関連プロジェクトを実施、国内外へ発信**
- **地域発の国際芸術祭など**
  地方公共団体と芸術団体などが連携して行う地域の国際的な芸術祭が多数企画され、国内外の人々の滞在型誘客を目指しています。
- **東日本大震災10年を迎えた復興関連プログラムを実施**

以上のような取組を通じて、**ジャンルを超えた新たなパートナーシップ構築やプログラム創成のノウハウを蓄積**し、**今後のレガシーとして次世代へ**繋いでいきます。

今後（2020年度後半・2021年度以降）の方針

◆今後の方針

日本博総合推進会議（第２回）【２０２０年３月１２日】（総理発言）
　残念ながら、今週予定されていた日本博オープニング・セレモニーは、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、開催を中止することといたしました。
　現在は、感染の拡大防止に全力を挙げておりますが、収束が視野に入った段階では、日本の素晴らしさを国際社会に向けアピールするため、日本博を、一層強力に推進していくことといたします。
　このため、本日委員の皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、日本博が、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を各分野にわたって体系的に展開する試みとして、より充実した内容となるよう、文化庁が中心となって、関係府省が連携して、さらに取組を進めてください。

- 今年度のプロジェクトの取扱方針
  １．新型コロナウイルス感染症対策について万全を期しつつ、極力開催する。
  ２．新型コロナウイルス感染症の状況に常に留意し、必要な場合は時期・場所を変更する等の調整を行う。
  ３．やむなく中止となったプロジェクトは、可能な範囲で多言語映像コンテンツの制作・発信等を行う。

- 来年度のプロジェクトの実施方針
  上記の取扱方針に加え、今後計画するプロジェクトについては、多言語映像コンテンツの制作・発信にも力を入れ、コロナ後の新たな環境を見据え、国内観光需要・インバウンド需要の喚起を目指す。
  また、文化プロジェクトのイノベーションに資する取組を積極的に推進する。
  ※来年度の募集については、政府予算案決定後に開始予定。

- ２０２１年度を日本博の本番年と位置付けるとともに、２０２２年度以降も国内観光需要の一層の喚起やインバウンド需要回復に資するコンテンツの発信等に取り組む。

ウィズコロナ時代における取組（例）

・特別展「きもの　KIMONO」（主催・共催型）
・特別展「あるがままのアート - 人知れず表現し続ける者たち - 」（主催・共催型）
・ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！日本の伝統芸能 ―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」（主催・共催型）
・日本博特別公演『日本の音と声と舞―』（主催・共催型）
・特別展「京の国宝 ―守り伝える日本のたから―」（主催・共催型）
・工藝2020－自然と美のかたち－（主催・共催型）
・日本博　皇居外苑特別公演～祈りのかたち～ (主催・共催型)
・東北の6つの伝統的夏祭が一体となった「東北絆まつり」による東北の復興、魅力発信プロジェクト
～2020年を契機とした首都圏巡回プロモーション～（イノベーション型）
・Discover 伝統芸能 －歌舞伎・能・狂言・文楽・日本舞踊・寄席・雅楽で「おもてなし」－ （主催・共催型）
・二条城×ネイキッド　夏季特別ライトアップ2020（参画型）
・みんなの花火 ～障がい者も外国人もあるゆる人が一緒に楽しめる花火～（イノベーション型）
・企画展「国立公園 －その自然には、物語がある－」（主催・共催型）

ウィズコロナ時代における取組

特別展「きもの　KIMONO」

〈 ＫＩＭＯＮＯ展の映像コンテンツ制作・配信 〉

≪入場制限下においても多様な配信を試行≫

■**動画コンテンツ：**自宅で楽しめる「ギャラリートーク」映像コンテンツを制作・配信。海外向けに英語字幕版も同時配信

■**動画配信：**ニコニコ美術館（放送日：7月20日(月)）
⇒ 来場数　23,365 （7月21日（火）18:00時点）

■**テレビ放送：**ＮＨＫ Eテレ「日曜美術館 アートシーン」
（放送日：7月19日(日)）

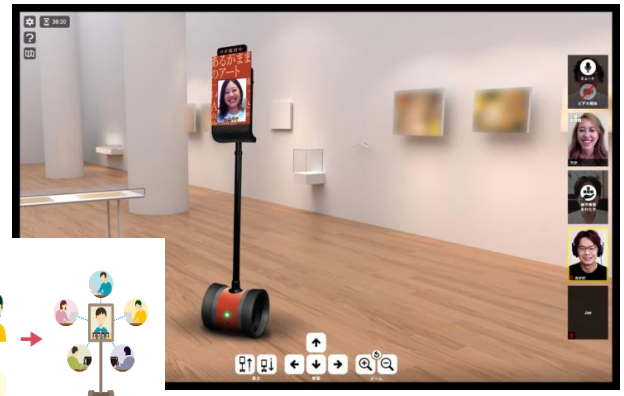
●開催期間：2020年6月30日（火）～8月23日（日）
●実施場所：東京国立博物館（台東区・上野公園）
●主催：東京国立博物館、朝日新聞社、テレビ朝日、文化庁、日本芸術文化振興会

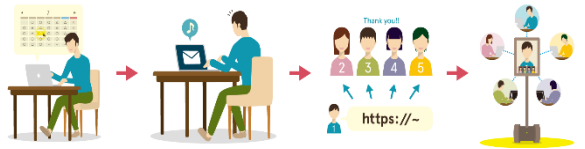
特別展「あるがままのアート - 人知れず表現し続ける者たち - 」

〈 バーチャル美術館の開設 〉

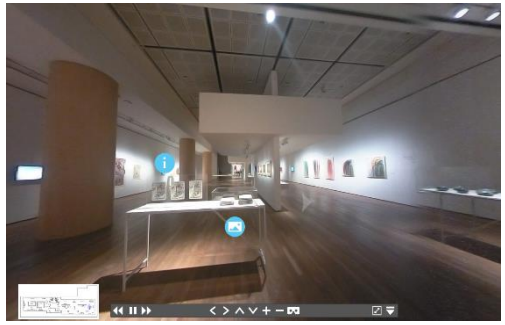
≪入場制限下においても多様な配信を試行≫

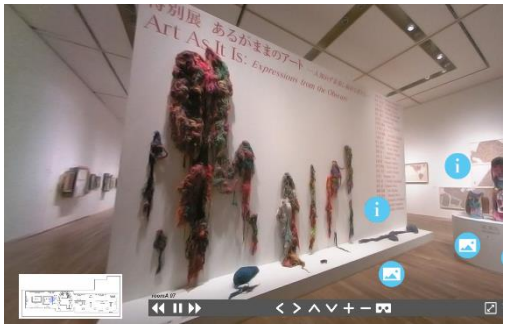
■**ロボ鑑賞会：**
会場内で走行するロボットを参加者が自ら操作し、展覧会をオンラインで鑑賞する体験を提供。仲間と一緒に"ビデオチャット"をしながら、自宅で展覧会を楽しめる。また、会期中"ロボ館長"が登場し、会場内での作品解説を実施。





■**３６０° VR展覧会：**
360° 写真を使ったバーチャル展覧会をオンラインで公開。





●実施日：2020年7月23日（木・祝）～9月6日（日）
●実施場所：東京藝術大学大学美術館（台東区・上野公園）
●主催：東京藝術大学、NHK、文化庁、日本芸術文化振興会

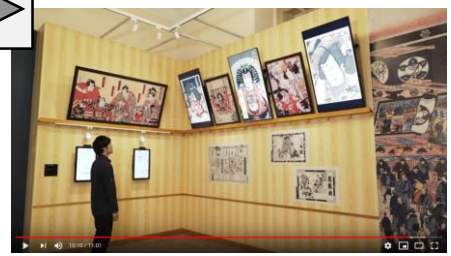
ユネスコ無形文化遺産
特別展「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」
〈 伝統芸能展のＶＲ映像 〉

≪感染症拡大防止のため2020年中止・延期≫

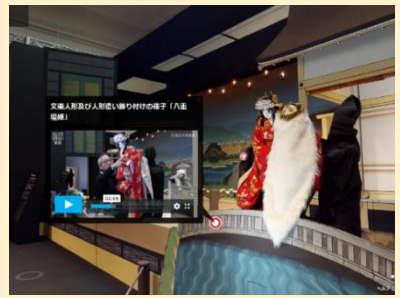
■**ＶＲ映像：**展覧会場内を３６０°動画埋め込み
■**動画コンテンツ：**会場全体の映像を、解説とともに配信
■**テレビ放送：**ＢＳ日テレ「ぶらぶら美術・博物館」（放送日：4月28日(火)）

開催に向けて展示の準備を進められていた会場内の様子を撮影し、バーチャルツアーや映像にてオンライン上で公開。

＜動画コンテンツ＞



＜VRコンテンツ＞



●開催期間：2020年3月10日（火）～5月24日（日）
●実施場所：東京国立博物館 表慶館
●主催：文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、文化財活用センター、読売新聞社

日本博特別公演　『日本の音と声と舞』
〈 国内外へ映像コンテンツ配信 〉

≪感染症拡大防止のため2020年中止≫

■**テレビ放送：**ＢＳ日テレ　放送日：6月20日（土）
NHK総合　放送日：7月19日（日）
■**オンライン：**日本博YouTubeでダイジェスト版を配信など

ＢＳ日テレでの放送後、民放テレビ局連携公式ポータルサイト「TVer」で1か月間配信。NHK総合での放送後、NHK番組配信サービス「NHKプラス」で配信。また、各芸能の映像を海外向けに発信する短いコンテンツで編集（日・英・中・韓・仏）・配信。

●収録日：2020年3月14日（土）
●実施場所：東京国立博物館 平成館
●制作：日本芸術文化振興会

特別展「京の国宝 ―守り伝える日本のたから―」

〈 国宝修理映像コンテンツ編集・配信 〉

≪感染症拡大防止のため2020年中止・延期≫

■**映像コンテンツ：**国宝修理の技を映像で配信
■**パンフレット作成：**多言語（日・英・中・韓）で作成

文化財の保存活用に必要な文化財修理、修理材料の確保や修理技術の継承、模写・模造製作を通じた技術の復元等の取り組みを紹介するパンフレットを多言語（日・英・中・韓）で作成し、あわせて映像コンテンツを編集し配信。

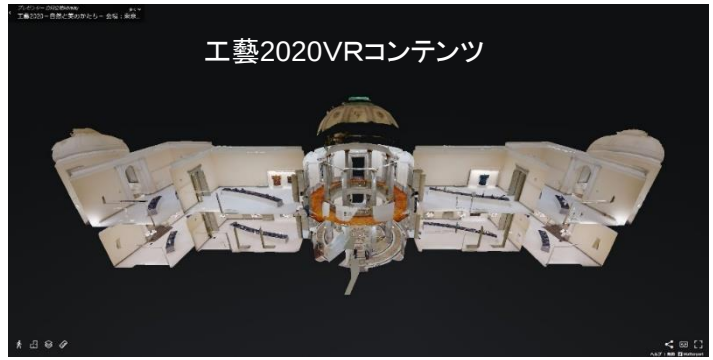
●開催期間：2020年4月28日（火）～6月21日（日）
●実施場所：京都市京セラ美術館（京都市左京区）
●主催：文化庁、日本芸術文化振興会、京都市、読売新聞社

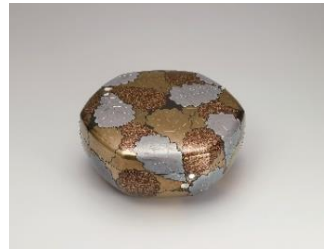
工藝2020 －自然と美のかたち－

〈 映像コンテンツ制作・発信 〉

≪入場制限下においても多様な発信を試行≫

■**映像コンテンツ：**展示会場内の映像コンテンツを制作・発信し、自宅や海外でも楽しめるよう企画
■**オンライン：**ギャラリートーク・シンポジウムなどの映像を配信、オンラインツアーの開催





室瀬和美
《柏葉蒔絵螺鈿六角合子》
2014年

奥田小由女
《海から天空へ》
2018年

VRコンテンツではウェブ上で実際の展示空間を体験する事が可能。

●開催期間：2020年9月21日（月・祝）～11月15日（日）
●実施場所：東京国立博物館 表慶館（台東区・上野公園）
●主催：文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、読売新聞社

日本博　皇居外苑特別公演～祈りのかたち～

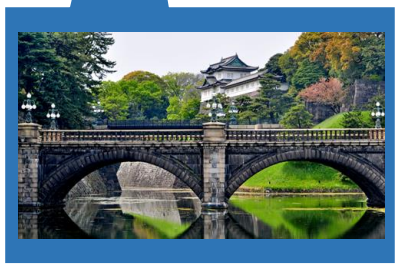
〈 国内外へ映像コンテンツ配信 〉

≪これからの新しい舞台観覧の試行≫

■**オンライン**：配信調整中
■**テレビ放送**：放映調整中

国内外にテレビやＷＥＢにより配信するための映像コンテンツを制作。

「翁」観世清和　撮影：二階堂健



二重橋を背景にした野外特設舞台

●開催期間：2021年3月12日～14日
●実施場所：皇居外苑（環境省・文化庁との連携事業）
●主催：文化庁、環境省、日本芸術文化振興会

東北の６つの伝統的夏祭が一体となった「東北絆まつり」による東北の復興、魅力発信プロジェクト ～2020年を契機とした首都圏巡回プロモーション～

〈 WEBコンテンツ編集・発信 〉

≪WEBで東北の祭りと文化を発信≫

■**動画コンテンツ**：祭りを体感できる映像コンテンツの発信
■**WEBサイト**：過去の東北絆まつりパレード映像、特別演舞写真等のアーカイブページを追加し発信。

集客イベントの自粛に伴い、自宅で楽しめるホームページづくりを目指し、祭り文化をより深く知ってもらうコンテンツを制作し、WEBサイトやSNSを活用して発信。

（参考）2019年度制作映像コンテンツ
「東北のまつりと文化・観光の魅力」

●開催期間：2020年7月～2021年2月
●実施場所：オンライン
●主催：東北絆まつり実行委員会

ウィズコロナ時代における取組

Discover 伝統芸能
－歌舞伎・能・狂言・文楽・日本舞踊・寄席・雅楽で「おもてなし」－
〈 歌舞伎入門動画コンテンツを制作・配信 〉

≪新しい舞台鑑賞の試行≫

『松本幸四郎の歌舞伎を知ろう』
外国人向けDiscover KABUKI公演に替えて、英語字幕付きで初心者向けの歌舞伎入門動画コンテンツを制作し、国内外に配信。

歌舞伎入門動画コンテンツ
「松本幸四郎の歌舞伎を知ろう」

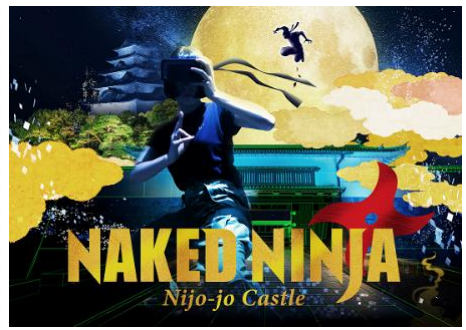
仁木弾正（松本幸四郎）

●配信期間：
第１回「歌舞伎役者は神出鬼没」～舞台と大道具～
令和2年8/27-9/26、10/23-11/22（再配信）
第２回「映(ば)える歌舞伎役者」～化粧・かつら・衣裳～
令和2年10/23-11/22
第３回「歌舞伎の生物多様性」　～動物・物の怪・霊獣～
令和2年11/24-12/23
第１回～第３回 一挙配信
令和2年11/24-12/23、12/24-令和3年1/23（再配信）
※順次配信される1～3回の動画（日本語）の後、英語字幕付きの短編を別途制作
●料金：1,800円（各回・税込）　●制作：国立劇場

二条城×ネイキッド　夏季特別ライトアップ2020
〈 バーチャル映像コンテンツの発信 〉

≪現地の取組とオンラインの多様な組み合わせの発信を試行≫

■VRコンテンツ：「NAKED NINJA -Nijo-jo Castle-」を制作
■自宅でＶＲ映像を楽しむ：
「オンラインで二条城に忍び込む！」をコンセプトに、バーチャル二条城へ潜入し、自宅や海外でも楽しめるＶＲコンテンツを提供し、国内だけでなく海外にも新しい観光体験をお届けする。



VRゴーグル

■現地で楽しむ：
二条城現地では、ディスタンス提灯™で地面を花の模様で照らし、光の輪で自然と来場者同士の距離を保ちながらライトアップされた庭園などを回遊できる。

万華鏡をモチーフとした
大きなカレイド花火

ディスタンス提灯による回遊

●開催期間：2020年8月8日（土）～30日（日）
●実施場所：元離宮二条城
●主催：京都市、二条城×ネイキッド 夏季特別ライトアップ2020制作委員会
●企画・制作・運営：株式会社ネイキッド

みんなの花火
～障がい者も外国人もあるゆる人が一緒に楽しめる花火～
〈 外国人インフルエンサーなどによる花火の魅力発信 〉

≪移動制限下における多様な発信≫

■**オンライン：**インフルエンサーによるYouTube配信
（2019年9月25日公開、2020年8月までに650万回以上視聴）
（2020年10月10日公開、2020年12月までに6.7万回以上視聴）
■**花火デザインワークショップ：**2020年8月3日(月)、7日(金)
（於：品川区立台場小学校）
■**テレビ放送・WEB配信：**花火打ち上げ模様を放映
（日本テレビ：2020年8月23日(日)）

〈YouTube配信〉
外国人インフルエンサーによる映像を配信し、海外でも人気が高い日本の花火の魅力を国内外に発信。

〈花火デザインワークショップ〉
また、障がいの有無を超えて子どもたちと一緒に、花火のデザインワークショップで作った絵をもとに、花火の演出プログラムを作り上げ、打ち上げた。

●主催：一般社団法人日本花火推進協力会

企画展「国立公園」 ―その自然には、物語がある―
〈 国立公園の魅力をテレビ国際放送やオンラインで配信 〉

≪移動制限下における多様な配信≫

■**オンライン：**ドローンを活用した４Ｋ高精細空撮映像の配信
■**テレビ放送：**国際放送NHKワールドJAPANを中心とした国内外メディアの活用
■**巡回プロモーション：**高精細8K映像体験キャラバンカーによる巡回

四季折々に変化する日本の多様な自然と、そこに暮らしてきた日本人の文化を、高精細空撮映像でも紹介。
また、８Ｋシアター搭載のキャラバンカーによる巡回プロモーションやテレビ番組の制作・放映を通じて、同企画展及び全国の国立公園への誘客を図る。

国立公園展 PR動画

企画展「国立公園」予告
４Ｋドローン編

●開催期間：2020年8月25日（火）～11月29日（日）
●実施場所：国立科学博物館 地球館特別展示室
●主催：国立科学博物館、環境省、株式会社日本国際放送、文化庁、日本芸術文化振興会